

恋バナ

校長 武井 正明

放課後の家庭科部。この人たちとのひとときも、心が和むんだよなあ…。
先週トイレに行く途中、家庭科室の中にいる1年生と目が合った。
そして、トイレから戻る時、また彼女と目が合った。ちょっと笑った気がした。
これは行かんばだ。
引き寄せられるように中に入る。

家庭科室では、それぞれが学年関係なく、思い思いのペースで、
ゆったり作品づくりを楽しんでいる。この安心感と、ちょうどい
い距離感が家庭科部の魅力。せかせかして過ごしているあなた、
もう少しゆとりをもっていきましょうよ。吉中の癒しの空間、放
課後の、居心地のいい場所のひとつになっている。



その中のひとり。この前下校時の生徒玄関で、密かに先輩の背中を目で追っていた彼女
がいた。彼女は布で小さな、パンだけのハンバーガーを作っていた。

「いつ言ったらいいですか?」「いや今じゃない。今コクったら80%ダメかもわからん
よ」「でも20%は可能性あり?」「いやいや。もしダメだったら、卒業まであと何か月あ
ると思う?その間ずっと地獄の思いだよ。ずっと避けられたりしたら最悪じゃない?今は
その、まあ余計なことは考えずにだな、ハンバーガーづくりに集中した方がいいって」「え
えっ?なんでえ〜」「なんでもだ」

こんな感じ。青春だね。俺もそんなときがあったよ。ただ、青春は独りよがり。これが
歳を取ってくると、自分が傷つかないように「保険」を掛けるようになっていきます。

私たちの話に周囲は明らかに興味津々。会話に時折入る人、指を動かしながらニコニコ
聴いている人、布のロールケーキを頭に被っている人、この自由な感じがいい。

「先輩、ネイルやるタイプが好きかも」「違うんだなあ…。あなた、まだまだ考えが浅
いねえ」「そうだよ、逆に清楚系がいいのかも」「その通り!」「でも、清楚系でネイルや
る人だっているよ」「確かにねえ…」会話の中にコロコロと笑い声が挟まる。中学時代な
らではの青春の一コマですな。気付けば六十近い爺さんも、中学時代に戻
っています。こんな会話をしていると、時間が過ぎるのもあっというま。

ふと教卓にいらした有田先生に話し掛ける。

「それよりも大の里の方が気になります」

編み物をしながら、大の里のことが気がかりだったとは…。

吉中放課後の家庭科室は、こんな空間です。

有田先生所有、大の里のサイン